

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成31年3月3日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4674000148
法人名	社会福祉法人脩寿会
事業所名	アルテンハイム鶴宮園グループホームうらら
所在地	鹿児島県薩摩郡さつま町紫尾4088-1 (電話) 0996-59-8088
自己評価作成日	平成31年2月3日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成31年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・入居者様の生活歴や背景を踏まえて、ご本人のペースでうららでの生活を送れる様に配慮します。
- ・日頃のケアの振り返り・研修を通じて認知症の方への理解を深め、入居者の方が健やかにうららで過ごせるようにします。
- ・ご家族やボランティア・地域の方との関わりを通じて、地域の一員として入居者様・職員・事業所が認知され、また地域貢献できる様に努めます。
- ・職員間のコミュニケーションの充実を図り、共通の認識を持って業務に当たれるように、また笑顔で楽しく働けるような職場環境の構築を目指します。
- ・職員は、個々に目標や役割を定めて、認知症介護専門職としての技量向上を図れる様に努めます。
- ・行政より委託法人で運営しているオレンジカフェを月2回開催しており、地域住民の方の認知症等の介護相談や交流の場・憩いの場所となっております。

併設した特別養護老人ホームにて法人主催の紫尾懇談会が年2回開催されており、消防関係者や民生委員などの地域関係者や職員、入所家族が参加し、意見交換や状況の共有をして相互の協力関係を築いている。また、法人の行事(夏祭り、敬老会など)には、家族や地域に協力をもらったり、大雪の時には、除雪の手伝いをもらったりしている。法人の行事開催時は、駐車場の整理を手伝ってもらったり、年数回草払いの協力がある。また、地域の方が竹ホーキを寄贈して下さり活用している。地域とは、平成29年4月から、「オレンジカフェ」を通じて地域交流し、認知症への理解を深めたり、介護相談に応じるなど地域と関わり事業所にできる地域貢献を意識し実践に繋げている。

法人は、職員の育成にも力を入れており、法人内の園内勉強会の開催や外部研修会への参加を勧め自己研鑽に努められるよう取り組むとともに、介護プロフェッショナルキャリア段位制度を活用して、職員一人ひとりの目標意識を定着させ達成に向けてキャリアアップが図れるよう支援している。また、外部研修などは、同業者との交流や情報交換の場になっている。

誕生日には、昼食時にプレゼント品を手渡して職員が祝辞を述べ、本人からお返しの言葉を頂戴するなど温かで家庭的な雰囲気を感じさせる。運動会では家族と食事を楽しんだり、ソーメン流しなど外食を楽しんでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は「明るい笑顔を大切にします。自分らしい生活を支えます。」。玄関やホールなど目に触れる場所に掲示したり、広報誌に掲載する事で、うららでの利用者の暮らしに反映させることができるように努力している。	理念は、法人統一のもので利用者の生い立ちや生活歴などを踏まえ、気づきシートなどを活用し、これまでの生活が継続できるようまずは職員が明るい笑顔で利用者に接し、日々理念を意識したケアを心がけている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方々に来て頂き、カラオケ・生け花教室などを実施し、地域交流の機会としている。また、地域の行事等に参加している。	ボランティアの受け入れに積極的で、生け花を利用者と一緒に活かしてもらったり、カラオケを楽しんだり、実習生の受け入れもしている。また、温泉祭りや彼岸花祭りなどの地域行事に参加できるよう支援したり、地元スーパーの移動販売を活用するなどして地域と交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	毎年、高校生の実習生等を受け入れ、認知症の方々へ直に接して頂き、その理解の一助となるような学習の機会を提供している。また、町より委託され法人で運営しているオレンジカフェ月、2回開催しており、地域住民の方の認知症等の介護相談や交流の場・憩いの場となっている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は行政・家族・地域代表・民生委員から構成し、グループホームでの行事予定や活動状況の報告の場としている。年に一度の運動会の後で、参加された家族全員を交えての拡大会議を開催した。	会議は、運動会などの行事や避難訓練と同時に開催し、事業所の実情を見学してもらい情報を共有してもらっている。遠方の家族も多いため、法人やホームの便りを郵送したりして情報伝達を工夫している。管理者は、より多くの家族が参加しやすいよう信頼構築に努めたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日常業務のやり取りや、運営推進会議の場等で情報交換を行っている。行政主催の勉強会などにも参加している。	管理者は、5年前からさつま町の「認知症フォーラム」実行委員として活動する傍ら、法人主催の「オレンジカフェ」開催への協力や認知症サポーター養成研修の講師を受けるなどして相互の協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に繋がる可能性のある入居者個々の行動に対する支援方法に関して、それを行わないようにする手立てについての話し合いを実施している。具体的な対処としては見守りを主体とした支援であり、行動の制止等は極力控えるような形をとり、センサーマット・コールシステム・プザーの使用はあくまでも利用者の行動を察知し、事故を防止する目的で使用している。	身体拘束委員会があり、ケース検討会議などは、各ユニットごとに開催している。全盲の方や身体機能低下などの方がいるが、住環境を検討し、本人が安心して自由に行動できるようセンサー類の使用に関しては住環境を整備したり、ベットから布団に変更するなど工夫している。また、権利擁護に関する制度を正しく理解するために勉強会や研修会を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や勉強会の機会を持ち学びの時間としている。言葉による虐待がないようにスタッフ会議で話し合いの場を持ち意識づけを実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修を学びの場とし、諸制度を理解する事で、入居者様が当該制度の支援が必要となった場合への備えとしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に疑問点や不安な部分は説明する事で理解を得て頂くようにしている。重要事項説明書に基づき、説明を管理者より行い、同意を頂くようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族からの意見や相談・苦情の申し出を積極的に受け入れている。目に触れる所に苦情箱の設置を行いポスターも貼っている。家族面談時や面会時に意見や相談、苦情を引き出し運営に反映させるように図り、記録の整備を実施している。うららや鶴宮園の広報誌を送付したり、日常のひとコマを撮影した写真を送付するなど、活動状況をご家族に知って頂くような取り組みも実施している。	管理者や職員は、利用者や家族と対話する機会を大切にすることを心がけており、利用者には、意見が出しやすいよう言葉を置き換えたりする工夫をしたり、家族とは信頼関係が築けるよう努め意見、要望を聞き取るようにしている。特に、運動会時には多数の家族の参加が見込めるため、意見交換の場になっている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎日1・2号館合同の朝礼や毎月1回のスタッフ会議等に職員の意見や提案を検討する時間に充てている。担当入居者毎に、個人目標を設定しているが、その中で相談事・要望等を聞くようにしている。管理者個人では判断しかねる事案については施設長等に報告・相談し、職員の意見を理解してもらい、運営に活かして頂いている。	管理者は、年度初めに職員と面談を実施し、申し送り時やスタッフ会議などで意見を聞くようにしている。法人がストレスチェックを実施、働きがいのある職場や環境の整備に努めている。また、職員から出された意見などは、必要時、運営者などに相談の上で職員の意見が反映されるよう考慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長は毎日の現場訪問・日誌把握や職員との個別懇談等を通じて、実態把握に努め、改善対策に結びつける努力を行っている。日々の業務の中で職員毎に役割の分担を行い、職員の仕事に対する向上心を喚起させたり、前向きな姿勢を引き出すように図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の月1回の園内勉強会に参加している。また、法人外の講習会へも参加している。計画以外の研修会も随時提供し参加の機会を確保する事でスキルの向上に努めている。介護プロフェッショナルキャリア段位制度の自己評価様式を用いて、現状の能力を把握させ、技量の向上を図る取り組みも実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	参加した研修会・勉強会等で、他事業者と業務改善や入居者確保等に関しての意見交換を行ったり、情報交換を行ったりしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申込時に必ず入所申込者と対面し、入所希望者の状況をよく伺う。また当該者にホームに見学に来て頂くようにお勧めし、利用希望者の現状把握を行うようにしている。また、利用開始した段階では、困っていることや不安なことが無いかな、声掛けを行い、意向等を把握している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学時や入所申し込み時に必ず対面し、ご家族等から要望や相談事をお話しされやすい雰囲気づくりに努めながら、それらをよく聴取し、介護に活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始時にはご本人やご家族が必要としている支援内容を見極めるとともに、利用者の状況によっては特別養護老人ホームなどを紹介することもある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中では洗濯・掃除などを職員と共同で行っていただき、時間を共有する事で相互理解を図っている。今までに経験された事を伺いながら、本人が何ができるか考慮しながら支援するようにしている。季節毎の行事等の際は昔日の事を伺いながら共に時間を過ごす事は恒例である。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や家族面談時・電話・写真を添えた手紙等の送付により、現状を細かく報告し普段の生活の様子を知って頂く機会を設け、意見・要望等を頂き、支援に活かしている。また、対応可能なご家族には受診・買い物等をして頂き、日常生活の一翼を担って頂く様にもしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の知人・友人が見えられた際は、相談室等へ案内し旧交を温めていただくようにしている。ドライブの際は馴染みの場所を訪ねたりもする。また、隣接している系列施設に知人や配偶者の方が入所、利用されているので定期的に面会にお連れしたりしている。	携帯電話や固定電話にて家族や知人などと連絡を取ったり、年賀状のやり取りをされる方の支援をしたり、デイ利用者に面会に行かれ交流される方、家族の協力を得て散髪や墓参りなどの外出や外泊を支援している。また、趣味の雑貨を購入するため行きつけの店に買い物に行かれる方がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション時やお茶の際は、入居者一同で話し合いながら楽しく過ごして頂くように配慮している。入居者同士の相性の関係もあり齟齬を来す場合があると考えられる際は座席を離したり、接触を控えて頂く様な支援も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	主に、特養に入所された方や長期ショートステイへと移動された方との面会を継続的に行っている。入院等で一旦、退居された方に対しても、状況によっては、法人のショートステイの斡旋やグループホームへの再入居等の支援を実施している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前調査や入所後の言動から本人の思いやその変遷を介護経過記録や気付きシートに落とし込んで、職員の利用者の理解の一助としている。また、ケア会議や朝礼時などに現状把握や情報交換を行っている。	これまでの生活歴や日々の生活ぶりを踏まえて、支援経過記録、気付きシートを参考にして本人のお思いに触れ情報を共有して朝礼やケア会議にて意見交換し本人らしい生活の実現に向けてケアに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方等については事前調査や家族・知人の面会時に情報収集に努めている。また、ご本人との会話の中から察せられる事も多い。情報は気づきシートや介護経過記録に記入し職員の共通理解の手段としている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中・夜間を問わずバイタルチェックや普段との違いがないか様子観察する等して、特異な状況が見られた場合は介護記録等に記入したり職員間で情報のやり取りを行い、把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族・ご本人・計画作成者・担当職員を交えての担当者会議を実施し、それぞれの意見や思いを介護計画に反映できるようにしている。3～6ヶ月毎にプランの見直しを実施している。原案作成には、当該号館職員を交えての会議を開催し、実際の支援に当たっている現場職員の意見を反映させるようにしている。	本人の生きがいや日課を継続していきたいという目標を設定し、家族や職員、ボランティアの関わり方を定め、住環境を工夫し安全面に配慮した個別ケアプランを作成している。カンファレンスは、3～6ヶ月毎に実施、遠方の家族には介護計画書を郵送し、電話にて十分に説明し意見交換をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子は個別記録に落とし込み重要な内容についてはアンダーラインを引き、職員の共通情報としている。又、気づきシートを作成し家族やご本人からの情報を集約して全職員の財産としている。ヒヤリハット情報やリスク報告書もこまめに記入しスタッフの共通認識としてプランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や薬の受領、外出外泊の希望に沿った支援を行っている。外泊・外出時は家族と入居者の状態についての情報交換も細かく行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一八ひこりの春らしさを伝える地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練への協力をしてもらっている。地域のボランティアとの交流会など行っている。地域に在住の職員が多く在職しており、地域の行事に参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診については職員の支援と家族の対応を併用している。職員対応の場合、受診の結果はご家族に連絡を入れている。家族対応時は、身体状況を細かくご家族に伝達し、受診時の情報伝達に不都合が無いようにしている。年間受診計画を入居者ごとに作成し、遺漏が無いように留意している。 主治医による1カ月ないし3ヶ月毎の定期受診と、1年に2回のレントゲン検査・2回の採血検査・1回のエコー検査・インフルエンザ予防接種等の支援を実施している。夜間緊急時についてはホームドクター（林田内科）を利用している。	認知症疾患外来の受診があり、内服薬調整したり病状の安定を図っている。協力医療機関の外来受診が多く、家族の協力をもらったり職員が支援するなどしているが、必要に応じて書面にて情報提供している。訪問歯科診療との連携があり、栄養面や認知症の安定が図れるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の急変時や医療的な相談事がある際は施設看護師に対応して頂いたり相談にのって頂いている。またホームドクター（林田内科）の看護師とも相談をしたり、医師を通じての受診の必要の判断や医療的指示を受ける事も多い。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は面会を頻回に行う事で、病院関係者や家族と当該入居者についての情報交換を行う機会を可能な限り確保し、円滑にグループホームに復帰できるような取り組みを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に身体の状況の変化を細かく報告している。主治医や協力医療機関と頻りに情報交換を行っている。ご本人やご家族の思いを大切にしながら主治医の協力を頂き、往診や夜間時の協力医療機関の医師とホットラインを設けてケアを行っている。医療的なケアが日常的に必要なようになってくるような場合やグループホームでの生活を継続する事が困難となるような場合は早期に家族と相談し、ショートステイへの移行・特養への申し込み・医療施設入院等について支援している。	看護師の配置がなく看取りの体制はないが、急変時や重度化した場合には、マニュアルを順守して主治医や関係機関と連携するなど支援している。早い段階から話し合い、利用者や家族の意向に沿えるよう、医療機関や施設などの紹介を行い納得のいく最期を迎えられるようチームケアにて取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応に関してはマニュアルを作成しており、緊急時の手引きとしている。特に、緊急時の措置〔ハイムリック・心臓マッサージ・AED・救急車要請等〕については、定期的に研修会を開催する等して、訓練している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎日夜勤者同士で避難経路・誘導・通報などの手順を確認し常に意識付けを行っている。鶴宮園全体での防災訓練を年に2回、うらら単独での防災訓練を年に2回実施している。さつま町消防本部を必ず招聘し、指導等を頂いている。また、新しく入園した職員には消火訓練の指導も頂いている。	ユニットの連絡通路に防火壁があり、居室には、防災頭巾を準備、法人全体での防災訓練や運営推進会議開催と同時にホーム単独でも避難訓練を実施、備蓄は、法人で一括管理されている。夜勤者が避難経路・通報の手順を確認するなど防災意識は高い。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、声掛けの際は、敬称でお呼びするようにしている。否定・命令口調になっていないか、普段から振り返りを行うようにしている。排泄支援の際などは、羞恥心に配慮した支援を心がけるようにしている。	さつま町主催の認知症の研修会や地域包括支援センターによる事例検討会に参加し、プライバシーに配慮したケアや知識などを自己研鑽するなどしてスキルアップし、誇りやプライバシーを損ねない介護を目指している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の入居者様によって地元言葉を使用する等、入居者様が答えやすいような問いかけ等に留意して、本人の思いや希望を表しやすいうように配慮している。“はい”“いいえ”で返答できるような声かけも行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の生活パターンや行動の特徴を把握し、可能な限り意向通りに過ごして頂ける様に留意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	定期的に出張理容を利用して頂いている。行事等では化粧やよそよそしの衣装をされる際に女性職員が必要な支援を行っている。入浴時の着替えの際は入居者の方には自由に好きな衣類を選んで頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ヨーグルトの注ぎ分けや後片付け等は入居者様の状況に応じて職員と行って頂くようにしている。仕切りの付いたプレート皿を使用し、見た目や分量が分かりやすくなるようにしている。	ユニットごとの献立で担当職員が食材を把握し調理している。下膳や食器洗いなど能力に応じた手伝いがありネギやニラなどの菜園の野菜を調理に活用、毎朝、ヨーグルトを摂ったり、食事形態を工夫し食事を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューによって肉・魚・野菜・果実などのバランスを考え偏った物にならないように留意している。水分量は主治医に相談し、相応しい量を設定している。入居者ごとに刻み食、また水分に関しては増粘剤使用など個々の状況に応じた支援を行っている。摂取量に関しては記録に落とし込み職員が把握できるようにしている。施設の管理栄養士にメニューチェックを実施してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後一日3回の支援を行っている。入居者様ごとに声かけ・部分介助と能力に合った関わりを実施している。、入居者様に応じたブラシや歯磨きの選択などを行い、週一回の義歯洗浄剤の使用も欠かさず実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを知る事でトイレ誘導の際の目安としている。尿意の把握が難しい入居者の方に関してもパット交換の時期を把握している。時間を決めての誘導や声かけを通じて残存機能を活かしつつ可能な限り自力排泄・排尿を促す関わりを実施している。夜間は、ポータブルトイレ使用者と通常のトイレ使用者と程度に応じて支援を使い分けている。	身体機能の低下や排泄リズムに合わせて排泄方法を検討し、本人の意向を踏まえ、プライバシーに配慮したケアに努め排泄の自立支援に努めている。男性用便器もあり、立位姿勢を保持し排泄ができるようトイレでの排尿の自立支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や歩行運動を行って頂き体を動かす機会を確保している。食事面からは確実な水分補給や繊維質(芋類)・ヨーグルトの摂取を勧めている。また、自立の方は排便確認の際は羞恥心に配慮しながら確認するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援している	入浴は3日に一度の割合で行い、時間的な制約を考えずにゆっくり入って頂くようにしている。入浴は職員とのマンツーマンで実施しており個々のレベルに応じた介助を実施している。衣類の準備は、自分で選択できる方・職員と共同で準備する方・職員対応となる方と支援法は様々である。	体力低下や加齢などあるため、基本的に午後から入浴支援を行っているが、必要時や本人の希望に沿い柔軟に入浴できるようにしている。季節を感じられるようゆず湯などを提供したり、皮膚疾患に配慮し足浴や清拭、更衣して清潔保持ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具に関しては住まいで使用されていた馴染んだ物を使用して頂いている。カバー等の洗濯は週一回実施し汚染等で不快な思いをされない様に配慮している。夜間は利用者合った照明や室温・湿度管理を行っている。夜間の就寝時間が不足している場合は昼間に睡眠をとって頂く等の支援を行うほか、居室での昼寝もして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関受診簿で薬剤の効能を確認しており、特に変更時は留意するようにしている。服薬介助の際は、薬の名前表示の声出し確認を励行し、また飲み込みを確認するようにして、誤薬等を防いでいる。飲み込みに不安のある利用者の場合、医師の許可のもと、薬剤を砕いて服用して頂くような支援を実施している。入居者ごとにケースを分け、間違いの無い服用をして頂く様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や食事後の食器洗い等の手伝い、洗濯物の整理など個々の能力に応じた役割を提供している。また、レクリエーションでは、歌ったり踊ったりして楽しんで頂いている。また、外出等を通じて生活の中にアクセントを付けるようにもしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族対応の外泊・外出は、特別な支障がない限り意向通りにはして頂いている。また、施設への慰問や夏祭り・敬老会への参加や彼岸花祭りの見学等のためのドライブ等の支援を行っている。	高齢化や重度化が進み外出ができにくくなってきているが、体調を見ながら天候の良い日は戸外を散歩したり、法人のイベントに参加したり、家族の協力を得て外出や外泊などを行っている。また、外出計画を立てて計画的に外出をすることもある。職員は、前回、目標達成計画にて取り組んでいるが、重度化などもあり今後の課題でもある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の希望に応じて職員が買い物支援を行う事が多い。また職員と一緒に出掛け、買い物支援を実施ケースもあった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話でのやり取りは自由であり、入居者様にも家族にもその旨伝達している。暑中見舞い・年賀状を作成して頂き、送付する支援も行っている。また、携帯電話を所持している入居者様もおり、自由に電話のやり取りをして頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度調整、換気を行い入居者様が気分良く過ごせるようにしている。季節の花や観葉植物を設置したり小物を置いたりと室内環境に変化をつけている。掲示物には写真や広報誌等を掲示し、中庭には植樹をし、季節感が醸し出せるようにしている。生花教室で作成した作品を飾るなどもしている。トイレや浴室は一目見て分かるように、張り紙をする等している。	広々としたリビング・ダイニングでは、運動会などの行事が行われている。季節の生花が飾られ、長めのソファが配置されている。畳部屋があり、中庭やウッドデッキを居室などが取り囲んでいる。壁には、行事の写真や広報誌などが掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや和室を通じて入居者同士での触れ合いの場所としている。また、入居者の意向に応じて、居室で静かに過ごして頂く時間を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、使い慣れた家具や食器等をお持ちいただき、ご本人に違和感なくうららでの生活になじんで頂く一助としている。居室内には、レク活動で作成した作品や家族写真をコルクボードに貼り付けたりする等している。	こだわりの洋服箆笥や観葉植物など馴染みの物を持ち込み居心地よく過ごせるよう配慮している。視覚障害や身体機能の低下などがあり、床に布団を敷くなど本人に合った住環境を検討し過ごしやすいよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には本人が手書をされた表札を飾り、自分の居室であるとの意識づけを行っている。また、トイレやお風呂など利用者の視点からの分り易い張り紙をするなどの支援を行っている。手摺を屋内に設置し、安全に生活できる様に配慮している。転倒の可能性のある入居者様の居室には緩衝マットを敷き詰める等の支援を行っている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	0		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない